

週刊 座、グレート・リーダーズ通信 創刊号

『インド私録-思い切り取り組んだこの50年-』No.1

週刊 座、グレート・リーダーズ通信
スタート

6月1日から放送を開始したラジオ・ニュームンバイの初番組、お薦めのインド関連書籍を紹介する「座、グレート・リーダーズ」では、番組ガイドとして、『週刊座、グレート・リーダーズ通信』を発行いたします。ご紹介書籍の理解を深め、インドをもっと知るためのキーワードや、収録の都合でご紹介できなかったエピソード、収録中のこぼれ話などをお知らせしてまいります。また、メールやツイッターなどでお寄せいただいたご質問などにもお答えしてまいります。

第一弾の作品は元ボンベイ総領事、武藤友治氏著『インド私録-思い切り取り組んだこの50年-』をとりあげます。

思い切り取り組んで出版された
『インド私録』

『インド私録』は2003年11月、シャンティ出版から出版されました。シャンティ出版とは聞きなれない出版社だと思われることでしょうか。それもそのはず、この出版社は『インド私録』を出すためだけに設立された出版社だからです。しかも、出版社を設立したのは、北海道帯広の東北海道

商事株式会社と、一見インドとも出版ともかかわりのない会社でした。

本書の内容は武藤氏が1996年から東京ジュース株式会社の機関紙、『天竺南蛮情報』に定期的に寄稿していた『我が青春のインド』を元としています。この『我が青春のインド』にほれ込んだのが、以前から武藤氏と親交のあった東北海道商事の社長を務める越前博雅氏でした。こうして、『インド私録』は世に出ることとなりましたが、ここにまた直木賞作家であり、大阪外大インド語学科の大先輩、陳舜臣氏からの序文が加わることとなります。

このあたりの経緯はあとがきに詳しく書かれていますが、かくのごとく『インド私録』には、人を動かす熱気があることを今回『座、グレート・リーダーズ』の朗読でお聴きになる方々もお分かりになることでしょう。

なお、御年80歳の著者は『インド私録』で見せる熱意で、今秋には新刊を出版の予定です。詳細はいずれ番組でお知らせします。

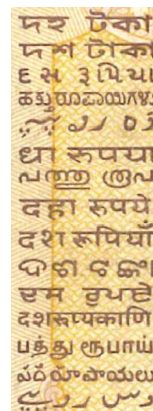


今週のキーワード！ ヒンディー語

武藤氏が入学した当時の大阪外国語大学では、インドの言葉としてヒンディー語を教えるインド語学科がありました。現在は合併を経て大阪大学の外国語学部のヒンディー語専攻に引き継がれています。

ヒンディー語はインドの国語ですが、インド全土で通じるわけではなく、放送にもありましたように、ビジネスではアソシエート・ランゲージである英語が準公用語として使われています。

また、同じく放送でご紹介しましたように、インドのお札には、ヒンディー語と英語の他に15の公用語が印刷されています(図ご参照)。



インドのお札に印刷された15の公用語

ラジオ・ニュームンバイからの
お知らせ

「座、グレート・リーダーズ」の次回放送は6月15日です。

皆様のご意見、ご質問をお待ちしております。あて先は

rnm@radio-new-mumbai.com